



## 木曾御岳講碑

御岳講は木曾の御嶽山の信仰団体

御嶽山は室町期に始まり、江戸期は隆盛を極めた。

装束は白装束、白脚絆、白鉢巻、八角の金剛杖、編笠、 腰に鈴、草鞋を履いて登山。

地方の山や神社の境内に建つ講碑は、この地を御岳山に 見立てて、本山に出掛けられない講員は、白装束でここへ 登って祈願する。

願文 天下泰平・五穀豊穣・家内安全・無病息災 など 碑面 御嶽山大神、八海山大神、三笠山大神 (神仏分離後)御嶽山国常立大神、八海山国狭槌大神 三笠山豊掛主大神

## 富士講碑

富士山を信仰する人々の建てる信仰碑

富士山の信仰の端緒は、室町後期、天文年間、九州長崎生まれの 長谷川角行東覚が、富士山の人穴で修行したのが始まり、数代を 経た後、食行身禄、村上光清らの享保期の活躍によって、江戸を 中心として庶民に普及、江戸八百講と呼ばれる程に隆盛を極めた。 この碑は本山富士に何度か登った記念に碑を建てたもの。

また、実際に富士山に登れない人のために、「富士塚」というのがある。または、富士登拝に向かう者は、この富士塚に篭って 精進潔斎した後に向かったという。

富士浅間神社の祭神は、木花咲耶姫命。瓊瓊杵尊の妃 大山祇神の子、木花咲耶姫の子に山彦・海彦

## 出羽三山供養塔

山形県庄内地方に聳える月山・羽黒山・湯殿山を総称して 出羽三山という。

この山の信仰は、現在・過去・未来の三界を渡り、真の人間となって甦る、という信仰である。

藩政時代は神仏混淆で、明治になって神仏を分離し、出羽三山神社となり、羽黒山は観音菩薩⇒玉依姫命、月山は阿弥陀如来⇒月読命、湯殿山は大日如来⇒大山祇命。

出羽三山の霞場では、男 15 歳になったら三山駆けをし、誕生の 秘密を教わる。

三山駆けを何度か達成した記念に、この供養塔を建てる。